

ジャーナリスト

日本ジャーナリスト会議 (JCJ)
〒101-0064 東京都千代田区猿樂町1-4-8 松村ビル4F
電話 03-3291-6475 FAX 03-3291-6478
メールアドレス: jcyj@ky3web.ne.jp URL http://www.jcj.gr.jp
年間購読料 3,000円 (送料込み) 振替・00190-2-76501



2010. 5. 25

普天間も新基地もいらない

「子どもの未来取り戻したい」

県民大会、沖縄の意思はつきり

4月23日午後、那覇に
入った。ホテルからすぐ
に外出。できるだけ街を
歩く。

大田昌秀元沖縄県知事
の事務所を訪ねてお話を
伺った。大田さんがパネ
ラーとして参加した討論
会に私も出席。「国家が
あつて国民があるのでは
ない。国民があつてこそ
の国家なのだ」と力説す
る大田さんに、沖縄の意
思を見る。



レンタカーで辺野古へ
行った。基地反対を訴え
るテント村は、次々に訪
れる人たちで大賑わい。
少しずつ、県民大会への
熱気が盛り上がり始めて
いる気配。

対「の立て看板と「学校
統合反対、故郷を壊す
な」という看板が目につ
く。聞くところによると、
各島の小中学校を統
合する計画があるが、島
の拠り所としての学校存
続を願う声が多い。

会場設営はまだ半ば。
地面に広げられた青いビ
ニールシートに「普天間
基地は国外県外へ移設せ
よ」と書かれた巨大な
文字が陽光を照り返す。

ちも多いようだが、やは
り圧倒的なのは個人参
加。車椅子や白い杖の人
たちも目につく。やむに
やまらず不自由な体をお
して基地撤廃への最後
の、本当に最後の期待を
かけて参加を決意したの
だろ。親子連れも多
い。「子どもの未来を親
の責任で取り戻したい」
と語ったのは、東村から
家族8人で参加したとい
うYさんだった。

午後3時、開会。普天
間高校3年の岡本かなさ
んの言葉が切なく響く。
「フェンスの中に閉じ込
められているのは、基地
ではなく私たちの心では
ないでしょうか」

熱気は人数を上回る。
5月4日、首相として
初めて沖縄を訪れた鳩山
首相は、この大会をどう
見たのか。たった数十分
の住民との対話。罵声の
中の日帰り訪沖。「抑止
力を学んだ」という首相
は、学んだ中身をきちん
と説明したのか。踊る言
葉と爆音下の生活との乖
離。

県民大会は終わり、沖
縄県民の意思は示され
た。その意思を私たち全
国民がどう受け止める
か。今度はそれが問われ
る。

鈴木力 (出版部会)
写真・大木晴子

5月28日
緊急集会

「週刊金曜日」が協賛

沖縄取材の報告も

日本ジャーナリスト会
議が5月28日夜に東京で
開く緊急集会「これでい
いのか、安保・沖縄報道」
に沖縄タイムス東京支社
の編集部長・与那原良彦
記者が講師として出席
し、沖縄関係の取材の現
場報告をすることが決ま

った。同記者は1992
年に入社し政経部などで
沖縄県政や選挙を取材、
今年春から東京支社に勤
務し、普天間基地問題を
追いかけている。

同時に雑誌「週刊金曜
日」がこの集会に協賛、
北村肇編集長から次のよ

地をどこに移すのが大
問題のように報じるマス
コミは、「基地や軍隊を
なくさない限り平和は存
在し得ない」という絶対
的現実を故意に隠蔽して
います。まさに「国家」
の共犯者です。◇

◆場所 自動車会館(東
京・市ヶ谷駅近く)
◆講師 朝日新聞記者・
伊藤千尋氏、フォトジャ
ーナリスト・中村梧郎氏、
沖縄タイムス記者・与那
原良彦氏

◆参加費 1200円
(JCJ会員1000円)
・学生500円

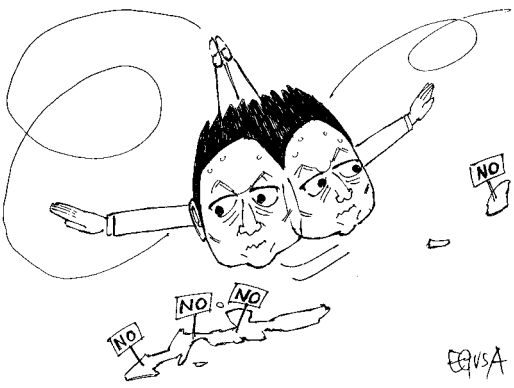
◆問い合わせ 日本ジャ
ーナリスト会議事務局
(電話03・3291・6
475)

◆日時 5月28日(金)
午後6時半から

「代替基地は不要」
米側資料をもとに表明

記者会
アブ
シラ
アクラ

●コミックJCJ●



「まずい、降りる場所がないっ！」 江草普二

の危険性について写真を
示しながら説明。米国の
安全基準ではクリアゾー
ン(土地利用禁止区域)
として住宅などが建てら
れない地域に、普天間で
は小学校や保育所など公
共施設が18カ所、住宅が
800戸あり、数分に1

回のペースで繰り返され
る飛行訓練で住民は騒音
に悩まされていると実情
を語った。

会場の明大リバティ
ホールには3000人近く
が集まり、普天間問題へ
の関心の高さを示した。
(新聞部会)

安保50年とJCJと私

元・共同通信社会部記者
板垣まさる

一児の母として
女性運動取材

結婚を理由に異動させられていた調査部から5年ぶりに取材に戻ったのは、1959年9月。安保は序盤だった。遊軍として取材が始まった。この間、一児の母となり、労組中執・婦人対策部長でもある私を受け入

れた社会部は駆け出し時代の古巣だ。あの占領下と比べ記者数も倍加した大世帯ながら、各自が自由に働ける職場だった。部長は長与道夫さんから途中で田英夫さんに。遊軍の中心にいつも斎藤茂男さんがいた。原寿雄さんが労連副委員長の専従だった。毎週の遊軍会で話し合いながら、情報

婦連の会議を岐阜に出張取材。加盟紙に大きく載ったことを覚えている。取材用の腕章の下に組合の腕章

女性や市民の安保改定阻止の運動が広がるのに対し、賛成派の女性達も組織され、調印全権団激励集会も開かれた。「女性が見る安保」というこ

当時、労基法で深夜労働は禁止だったが、「今晩は泊まって明日の早朝デモを取材して」と言われ社の近くの第一ホテルに宿泊した。深夜帰宅はいつものことだったが「泊まり」はこの1回だけ。安保の拡大につれて広がる取材の手にデスクも苦

った。だが、腕章だけは同じように二枚重ねにしていたものだ。また別な時、国会前でデモを見ているとデモの中から呼び掛けられた。出版労連の列に女子大時代の友達の顔があった。そこら中に仲間がいた。運動の盛り上がりにつれ、これを伝える新聞放送に対する政府・財界な

「普天間の話、あるいは政治と万ネの話は直接国民の生活には影響しない」「地方に行くと、普天間は雲の上のお話」――糸満の伊敷郁子市議に抗議された民主党の山岡賢次国対委員長は、民主党の「本音」が飛び出したものだった▼簡単な問題ではないことは分かっていたはずなのに、

「国外、最低でも県外」と公約し、今頃になって「学ばば学ばばと抑止力があつた。批判に心えるためだったか、主な出稿記事の地方紙の掲載状況を何人かで調べ、整理して表にした。その表を巻紙のようにして広い編集局の真ん中にある社会部の棚に置いて帰った。翌日か休み明けだったか、その資料がなくなっていた。みんなに聞いて探したが出てこなかった。誰かに監視されていたのか」と話し合った。JCJには、創立準備

として必要」などと言うのでは話にならないが、これも、要するに「他人の思想が、今も生き続けている、ということだ。政治もメディアも、すべてに「なし崩し」を許し「ことなかれ」で済ませる。安保を受け入れ基地を受け入れ、「抑止力」と言われると思考停止する。そんな日本になつてしまった……▼どう結論を出しても、普天間の解決には時間がかかる。こ

こで大事なものは、対米従属を受け入れ、今後10年、20年、あるいは30年、40年と、米軍基地の存在を認め、日本国憲法の原理を否定したままの日本でおくのか、それとも、毅然として独立し、憲法が予定した平和外交に生きる国として進むのか、どちらの方向に足を踏み出すかということなのだ▼「自由と独立ほど尊いものはない」――ホーチミンの言葉である。



「1959年12月10日の静かな示威行進」(1960年1月7日付本紙から)

交換して取材の方向を出す。私は続けていた女性運動取材を手始めに、安保の運動が広がるにつれ各種の小集会から大行動デモの雑観取材にも出掛けるようになった。デスクでの原稿取りも遊軍の役割。いつ頃だったか、各女性団体の安保に対する姿勢をまとめるため、全地

とで、三宅艶子さんから賛否両派の代表的女性に国会審議を見てもらい、記事にしたこともあった。5月19日の衆院での強行採決で安保改定の賛否から、議会制民主主義の問題へと広がって、世の中は一層盛り上がった。6月4日には国労、動労などが早朝ストをうち、560万人参加という統一行動となった。

材。デモは国会に向け切れ目なく続く。誰が始めたのか、デモ取材が常時化すると社名を書いた取材用のエビ茶の腕章の下に赤い組合名の腕章を重ねた。取材が終わって組合の行動に参加すると、くると取り替える。これというデモや集会のときはいつも仕事の私は、組合員としての参加はあまりできなかった。

どからの圧力も目立つようになつた。共同に対しては、理事会での「共同の記事は偏向している」という発言や日経連の偏向呼ばわりがあつたという。これが私たちに直接響くことはなかった。幹部達は現場を守っていた。

「普天間の話、あるいは政治と万ネの話は直接国民の生活には影響しない」「地方に行くと、普天間は雲の上のお話」――糸満の伊敷郁子市議に抗議された民主党の山岡賢次国対委員長は、民主党の「本音」が飛び出したものだった▼簡単な問題ではないことは分かっていたはずなのに、

「普天間の話、あるいは政治と万ネの話は直接国民の生活には影響しない」「地方に行くと、普天間は雲の上のお話」――糸満の伊敷郁子市議に抗議された民主党の山岡賢次国対委員長は、民主党の「本音」が飛び出したものだった▼簡単な問題ではないことは分かっていたはずなのに、

「普天間の話、あるいは政治と万ネの話は直接国民の生活には影響しない」「地方に行くと、普天間は雲の上のお話」――糸満の伊敷郁子市議に抗議された民主党の山岡賢次国対委員長は、民主党の「本音」が飛び出したものだった▼簡単な問題ではないことは分かっていたはずなのに、

「普天間の話、あるいは政治と万ネの話は直接国民の生活には影響しない」「地方に行くと、普天間は雲の上のお話」――糸満の伊敷郁子市議に抗議された民主党の山岡賢次国対委員長は、民主党の「本音」が飛び出したものだった▼簡単な問題ではないことは分かっていたはずなのに、

積極的平和国家めざせ
神奈川、各地で憲法の集い

神奈川県内では、横浜、川崎、横須賀、鎌倉など各地で「憲法の集い」が行われた。翌日の新聞を見ると、昨年までほとんど無視してきた「朝日」が扉版で、

写真入り、3段見出しで報道した。ただし、相模原市での「田母神俊雄・元航空幕僚長講演」の模様も「保険」として掲載していた。「大手マスコミ」は歴史

かながわの宣伝行動で、呼び掛けた。高校教師は「日の丸・君が代で起立しない教師の氏名公表を強行する県教委、松沢知事は憲法を守れ!」と訴えた。普天間・日米安保への関心の高まりを反映して、シール投票への参加者、チラシ受け取りも例年以上に多かった。

「普天間基地の移設先」をめぐって、県民の集い(神奈川公会堂)では冒頭、「沖縄国際大学への米軍大型ヘリ墜落事故」(04年8月)の生々しい映像が写し出され、「世界一危険な基地」米軍普天間基地の現状を米軍普天間基地の現状を

「非核三原則、武器輸出三原則を遵守し、米軍基地をなくしていく積極的平和国家こそ、日本の進むべき道」と強調した。阿部 裕

井端正幸・沖縄国際大教授(左)を先頭にデモ

「メディアの闘いと展望」

安保条約シンポ・JCJ分科会
―パネリストに松田浩氏ら―

6月26日に明治大学で開かれるシンポジウム「軍事同盟のない世界へ―改定50年目の日米安保条約を問う」で、JCJも分科会を開催する。その概要が決まった。分科会は午後2時から5時まで。JCJの担当する分科会は「平和憲法を実現するメディアをどう築くのか―安保50年・メディアの闘いとこれからの展望」(仮題)をテーマ設定している。パネリストとして、

松田浩(元立命館大学教授、坂井定雄(龍谷大学名誉教授)、明珍美紀(毎日新聞記者)の各氏が話し合う。

コーディネーターはJCJ代表委員の吉原功明治学院大学名誉教授が務める。

日時 6月26日(土) 全體會11午前10時から。分科会11午後2時から。

会場 明治大学リバティタワー

参加費 一般1000円、学生500円、高校生以下無料。

連絡先は日本民主法律家協会03(5367)5430

大野晃の スポーツコラム

来年4月からの次期日 本体育協会(日体協)会長に張富士夫トヨタ自動車会長(73)が就任するよう

だ。3期目の森会長が任期満了で退任するのにもない同協会の会長選考委員会(委員長 佐治信忠サントリー社長・日体協副会長が推せんし、6月の評議員会で承認され

日体協 政財界支配のたらい回し

異例の元首相から元日本経団連副会長へのバトンタッチで、来年初創立周年を迎える日体協リーダーが、政界トップから財界トップへ引き継がれる。まるで政財界による国民スポーツ支配のたらい回しである。30年前のモスクワ五輪ボイコットでは、政府に支配された日体協自らが競技者の自主性を奪ったとして国民の非難を浴び政府の振興策拡大を期待して元首相を迎えたスポーツ界だが、逆に財政難を理由に公共的な施設整備や指導者の配置、競技者支援などは全国的に後退する一方で、国民は「スポーツするのにも金次第に追いやられた。

東京高裁 勝訴 読売「押し紙」名誉毀損裁判

「虚偽に基づく攻撃に抗して」

裁判悪用の言論弾圧を許さず

読売新聞西部本社と同事の3人の社員が、ウエブサイト「新聞販売黒書」の記事に対して2230万円の賠償を求めた名誉毀損裁判の控訴審判決が4月27日にあり、東京高裁は読売の控訴を棄却した。その後、読売が上告した。裁判が進むにつれて、意外な事実が浮上した。当初、江崎氏は自分が執筆した著作物であるがゆえに、わたしには掲載権がないと主張していた。それが提訴の前提だった。ところが裁判所は催告書は喜田村洋一



4月27日 名誉毀損裁判の勝訴判決報告集会 右端が筆者

初、江崎氏は自分が執筆した著作物であるがゆえに、わたしには掲載権がないと主張していた。それが提訴の前提だった。ところが裁判所は催告書は喜田村洋一

牛耳ることになる。五輪ボイコットの教訓は忘却の彼方だ。政府の振興策拡大を期待して元首相を迎えたスポーツ界だが、逆に財政難を理由に公共的な施設整備や指導者の配置、競技者支援などは全国的に後退する一方で、国民は「スポーツするのにも金次第に追いやられた。

企業スポーツが衰退する中で、財界支配は、競技者がまを強いながら、さらに商業主義を推進するのだろうか。世界の常識である「スポーツは全ての人の権利」が無視されたままの後進国・日本で、民主党や自民党により「国家戦略」としてスポーツの政治的、経済的利用の拡大が企図されているように、競技者たちは国際オリンピック委員会が「競

実の摘示ではなく、評論と判断。名誉毀損には当たらないとした。ちなみにこの事件では、記事に対する反論権を提訴していたが、読売はそれを行ってしなかった。いきなり裁判を起したのである。さらに2009年7月にも、読売は週刊新潮にもわたしが執筆した「押し紙」についての記事に対して、名誉毀損で裁判を起こ悪である。

ウソつき鳩山に怒りの渦

読谷村運動広場に9万人が結集して、米軍普天間飛行場の早期閉鎖・返還、国外・県外移設を求めた4・25県民大会からまだ1カ月も経っていないのに、あの日が遠く感じられる。仲井真知事をはじめ県内41の全市町村代表、自民党県連を含む県議会与



テレビの本音

普天間基地問題で、鳩山内閣は迷走に迷走を重ねている。あけく、「移設先」政府案は、なんと辺野古沖に「くい打ち棧橋方式」という。なんのことはない自公政権時の計画に逆戻りである。

米下院議員が連帯の声明

「沖縄の人々の闘いを支援します」

BS系「朝スバツ」という。「爆笑問題」の太田光さんも「勇気がいることだが、安保を考えるとき」(日本テレビ系「太田総理と田中秘書」というようにしない。「普天間基地即時・無条件撤去」の民意を受け止めない鳩山内閣の姿勢と似たりよつたりである。アメリカのデニス・J・クシニッチ下院議員が、『日本の人々への連帯メッセージ』在日米軍基地をめぐって(4月25日)という声明を出している。「沖縄の人々は長い間、在沖米軍基地再編に反対を表明してきまし



連載

知事との面談で「沖縄にも負担をお願いしなればならない」と県内移設を表明。那覇、宜野湾、名護と首相の行く先々で、「最低でも県外」との公約に「陸にも海にも基地はつくらせない」ときっぱり拒否し、面談後の集会で市民に報告した。それから約1週間後の10日、政府は辺野古現行案修正(杭打ち棧橋方式。徳之島への一部訓練移転等を含む)を政府原案とした市民のシブレヒコールが響く名護市民会館では首相と面談した稲嶺名護市長は、「辺野古に戻ってくることは絶対に許せない」「陸にも海にも基地はつくらせない」ときっぱり拒否し、面談後の集会で市民に報告した。それから約1週間後の10日、政府は辺野古現行案修正(杭打ち棧橋方式。徳之島への一部訓練移転等を含む)を政府原案と



大幅な財政赤字を抱えながらイラクとアフガニスタンの二つの戦争で軍事費の膨張が止まらない米国で、ゲーツ国防長官自らが軍事支出に歯止めを掛けようと躍起になっている。

長官は5月3日、メリーランド州での海軍装備品展示会で開かれた

熱い心で語られた「平和憲法の価値」



89年のJ C J集会で講演する井上ひさしさん

「無防備地区宣言」を提案

井上ひさしさんを悼む

この4月9日、1972年に日米両政府が沖縄返還の際に交わした「密約文書」開示訴訟で、東京地裁は密約の存在を認め、開示を命ずる判決を言い渡した。原告の完全勝訴だった。

この勝訴を契機に、日米安保を根本から問い直す論議が深められ、運動にどう反映されるか、希望を持たせた。

この夜、井上ひさしさんが亡くなった。前日、所沢で澤地久枝さんの講演を聞き、4年前に同じ会場で行なった井上ひさしさんの講演を思い起こしていた。

この時の井上さんは病み上がりの状態だったが、敗戦から44年経たこの機会に、新憲法に位置づけられた「三原則」を再確認する重要性を考え、大戦が生んだ平和憲法」と題した講演を行った。

昭和の最後の秋は、昭和天皇の下血の報道で持ちきりだった。マスコミは天皇の戦争責任には触れずじまいだった。米国による沖縄の長期軍事占領をマッカーサーに希望したという「天皇メッセー」も明らかにされなかった。

敗戦直後、GHQ占領下の混乱期に起きた世の母11隻体制の縮小を含む装備・調達改革だけでなく、組織運営を含めた国防費の包括的な効率化に踏み切ることを宣言したのとして注目される。ゲーツ氏はこの

この時の井上さんは病み上がりの状態だったが、敗戦から44年経たこの機会に、新憲法に位置づけられた「三原則」を再確認する重要性を考え、大戦が生んだ平和憲法」と題した講演を行った。

昭和の最後の秋は、昭和天皇の下血の報道で持ちきりだった。マスコミは天皇の戦争責任には触れずじまいだった。米国による沖縄の長期軍事占領をマッカーサーに希望したという「天皇メッセー」も明らかにされなかった。

敗戦直後、GHQ占領下の混乱期に起きた世の母11隻体制の縮小を含む装備・調達改革だけでなく、組織運営を含めた国防費の包括的な効率化に踏み切ることを宣言したのとして注目される。ゲーツ氏はこの

軍事費膨張に歯止めかけるゲーツ長官

で、思い切つて削減すべきだと訴えた。

長官はまた、冷戦が終わって20年経った現在多数の空母打撃艦隊群、原子力潜水艦群に依存した冷戦時代の戦略に

ゲーツ長官は、さらに5月8日カンザス州で演説し、国防予算削減に向けて国防総省の管理職を減らすリストラを進める方針を明らかにした。これは、原子力空

の演説の中で「2001年の9・11同時テロで国防支出のたがが外れた」と語り、過去10年の国防予算規模がイラク・アフガニスタン戦費を除いても

なければならぬとすなわち、悪名高い「軍産複合体」への挑戦状である。軍産複合体にうごめくのはいうまでもなく軍需産業、天下

の元軍高官たち、軍需工場を選挙区に抱える連邦上下両院議員たち、州議会議員たち、州知事たち……アメリカ最強のロビー集団である。

当然のことながら、ゲーツ演説を受けたワシントンには蜂の巣をつついたような騒ぎになっているという。今後、軍産複合体は高級官僚を巻き込んで激しい反撃を展開するだろう。11月の中間選挙を前にオバマ政権が「肅軍」方針を貫けるかどうか、注視しよう。

自衛隊は軍隊です。今日はこの現状を変えるために考へてきた具体的な提案をします」と言い、「国際条約集」を示されて熱心に話された。日本国憲法を水先案内として非軍事化を定めた南極条約、バンコック条約で結ばれている非核兵器地帯の東南アジアの国々のことやアフリカ条約など詳細に説明され、これらの国々の人たちが日本国憲法に盛られた精神を、特に前文を参考して苦勞しながら達成させて

いる様子を話された後、無防備地区宣言の運動を提案された。

「所沢は必ずできます。私は鎌倉でやります。今度お会いした時は進み具合を話し合いますよ」——こうした約束で講演は終わった。さまざまな英知が投げ込まれ、考えさせられ、勇気をもらった集会だった。井上さんはいともそうであるが、相手をあたたかい笑顔で包み込んで話される人だった。

山崎晶春(出版部会)

この二つの演説は、歴代最悪と言われる財政赤字を背負ったオバマ政権が、ブッシュ政権時代に歯止めが外された軍事費の膨張を制御し

自らの「満州」で生まれたジェームス三木が、壮大なテーマの演劇を書き上げた(演出も)。すなわち「満州」を素材に「国家とは何か」を問うた。

1934(昭和9)年、新京(長春に日本が築いた「満州国」の首都)にある満鉄理事・山倉誠二郎(青木力弥)の邸宅で、長女早苗(中山万紀)

しかしその数日後、満州協和会の職員であった早苗が農村の宣撫巡回中に、武装蜂起した農民に襲われ、拉致されてしまった。この年、土地の強制買収に抗して謝文東を中心とする農民が蜂起した「土竜山事件」

が起るが、当時このような反乱はすべて「匪賊」によるものといわれていた。関東軍将校の長男房彦(北直樹)をはじめ、一家は搜索に当たっているが、早苗の消息は分からなかった。

「東北民衆自衛隊」の一員である早苗は、

安住邦男

青年劇場『太陽と月』 「満州」を素材に 「国家とは何か」を問う

演劇回り舞台



撮影：宮内勝

「満州国」で、本当に存在するのですか？ 存在するのなら、どうして内地からやってきた日本人は満州国人にならないのですか？ なぜ関東軍は満州国軍ではないのですか？」と。そして農民がしばしば暴動を起こすのは先祖伝来の土地を守るためであることを告げるが、満州国官僚の吉野が聞く耳を持つわけもない。彼は言う。「日本は太陽で満州は月である。ぶつかることはありえない」と。しかし早苗は、やがて関東軍はシナと戦争を始めるだろうと予言する。

家族たちの必死の努力にもかかわらず、早苗は関東軍に拘禁され、そこを逃げ出そうとして射殺されてしまう――。

(4月16・25日 紀伊國屋ホールにて上演)

にんげんをかえせ 原爆裁判傍聴記

長谷川千秋

法廷に6年半通い、被爆者の目線で訴える元記者の誠実さが胸をつ

定年を迎えた記者は、屋大阪両本社の編集局長、監査役を歴任した新聞人だが、退職後、間をおかずには多様な答えが用意されているとして、わたしたちの前にいま、一本の貴重な道標が立てられた。それが本書だ。

著者は朝日新聞の名古

書評

本・BOOK・ほん

(価格は税別です)

情報源

藤田博司

情報源の明示こそ報道の原則 あいまいな表現の問題点を突く

どうする情報源 報道改革の分水嶺

今の事件記者や政治記者たち、それに元検査担当者たち、それに「情報源をあいまいにせず、もっと明示すべきだ」という本書の主張は、面倒な宿題を言いつけられたのに似て、できれば聞

今、事件記者や政治記者たち、それに元検査担当者たち、それに「情報源をあいまいにせず、もっと明示すべきだ」という本書の主張は、面倒な宿題を言いつけられたのに似て、できれば聞

今、事件記者や政治記者たち、それに元検査担当者たち、それに「情報源をあいまいにせず、もっと明示すべきだ」という本書の主張は、面倒な宿題を言いつけられたのに似て、できれば聞

今、事件記者や政治記者たち、それに元検査担当者たち、それに「情報源をあいまいにせず、もっと明示すべきだ」という本書の主張は、面倒な宿題を言いつけられたのに似て、できれば聞

今、事件記者や政治記者たち、それに元検査担当者たち、それに「情報源をあいまいにせず、もっと明示すべきだ」という本書の主張は、面倒な宿題を言いつけられたのに似て、できれば聞

今、事件記者や政治記者たち、それに元検査担当者たち、それに「情報源をあいまいにせず、もっと明示すべきだ」という本書の主張は、面倒な宿題を言いつけられたのに似て、できれば聞

今、事件記者や政治記者たち、それに元検査担当者たち、それに「情報源をあいまいにせず、もっと明示すべきだ」という本書の主張は、面倒な宿題を言いつけられたのに似て、できれば聞

今、事件記者や政治記者たち、それに元検査担当者たち、それに「情報源をあいまいにせず、もっと明示すべきだ」という本書の主張は、面倒な宿題を言いつけられたのに似て、できれば聞

今、事件記者や政治記者たち、それに元検査担当者たち、それに「情報源をあいまいにせず、もっと明示すべきだ」という本書の主張は、面倒な宿題を言いつけられたのに似て、できれば聞

グーグルに異議あり！

明石昇二郎

「1点60ドルの金銭補償」で済ます グーグル和解案の本質を暴露する



グーグルに異議あり！

し、名つての世界企業の手にかけられ、これが「フ

し、名つての世界企業の手にかけられ、これが「フ

し、名つての世界企業の手にかけられ、これが「フ

し、名つての世界企業の手にかけられ、これが「フ

短歌

現代の窓

評・小石雅夫

徳山 高明（群山）

普天間を移設の候補に何なれやしばしばも聞くわが徳之島 短歌研究5月号「忍辱の戦後史」

創造の神の畚の零れなす海に列なる小さき島々

普天間を如何にせむとか忍辱の戦後史を知れ六十五年

日本人君らの得しもの二つながら虚妄と知るべし平和と繁栄

沖繩普天間の米軍基地移設問題は、さんざんに『迷走』の筆句、ついには辺野古へと逆走して終わろうとしている。この間の経緯は、結局は逆走地点へと戻すかの、政府政権党内でボケとツツミが役割分担したパフォーマンズだった。

一首目は、そうしたなかで、にわかに喧伝され始めた移設候補地としての徳之島。政府の正式表明以前にリーク的に流して予め島民の反応感触を探るきわめて政略的意図が覗えた。だが、それはかえって「何なれや」と島民の憤激を呼んだ。

二首目は、昔の国づくりで、零れながらに出来たに過ぎない小さな島々であるがというなかに、しかしそこに平和に暮らしているのだという島民の強いメッセージが静かに込められている。

三首目は、普天間問題を考えるとき、単に基地だけの問題にとどまらず、その「忍辱の戦後史」と切り離し難い問題であると示唆する。沖縄にも、徳之島を含む奄美群島にも、それぞれが被つてきた「忍辱の戦後史」があることを知るべき、この上に米軍基地の移設など論外なところである、と。

四首目は、戦後・現在の「平和と繁栄」が、こ

うした沖縄その他の耐え難い「忍辱の戦後史」の犠牲の上に築かれてきたものならば、それは日本国民全体のものとしていうには「虚妄」ではないかと、「日本人君ら」へと鋭い問いかけである。作者は徳之島の出身。（新日本歌人協会事務局長）

『暴風地帯』

中村敦夫著

旺盛な活動を展開し、いち早く環境問題に取り組んできた。2004年に政界を引退して以降、同志社大学講師も務めた。もともと『チェンマイの首』でデビューした作家でもあるが、2007年に13年ぶりに『ごみを喰う男』を著し、ミステリーで

千葉県房総で風車につるされた全裸死体が発見されたことから事件が展開するミステリー小説。背景には原発廃棄物処理所誘致をめぐる利権争い、中央・地方政界、闇組織が渦巻き、市民団体活動家や地方紙記者が絡む。猟奇殺人事件の謎解きに引き込まれるうちに、環境・政治問題、社会的病理が告発されていく。

著者は「木枯らし紋次郎」で一世を風びし、現在も映画・テレビで活躍する。参議院議員として盗聴法阻止、「みどりの会議」立ち上げなどでも

日本ペンクラブ環境委員長でもある著者は、サスペンスで環境問題を告発・啓発する「エコミステリー」という新たな分野を開拓したといえよう。

秘密指令、抑留者のシベリアでの生活など当時の実情から、この問題の解決に不熱心な日本政府の態度追及まで、著者の冷徹な視点を加えて語られている。

全体の中で、とりわけ読み応えがあるのは、瀬島龍三にからむ疑惑の章であろう。大本営参謀、関東軍参謀を務めた瀬島はソ連抑留後に帰国して伊藤忠商事に入社、同社会長にまで登り詰め財界人として活躍した。この人物への疑惑は他の現代史研究家も追及しているが、本書でもまだ十分解明されたとはいえないのではないだろうか？

『検証 シベリア抑留』 白井久也著

（平凡社新書800円）

第二次大戦の直後、約56万1000人の日本人がシベリアに抑留され、うち5万3000人が死亡。死亡者のうち約4割は埋葬場所さえ分らない。また帰国者への国家補償の問題も未解決である。

この重い課題を広範な関係文書に当たり、また存命の関係者にインタビューして、世に訴えたのが本書である。著者は元朝日新聞記者で、モスクワ支局長や共産圏担当編集委員を歴任してソ連事情にも詳しい。ソ連軍の満州侵攻、スターリンの

旺盛な活動を展開し、いち早く環境問題に取り組んできた。2004年に政界を引退して以降、同志社大学講師も務めた。もともと『チェンマイの首』でデビューした作家でもあるが、2007年に13年ぶりに『ごみを喰う男』を著し、ミステリーで

日本ペンクラブ環境委員長でもある著者は、サスペンスで環境問題を告発・啓発する「エコミステリー」という新たな分野を開拓したといえよう。

秘密指令、抑留者のシベリアでの生活など当時の実情から、この問題の解決に不熱心な日本政府の態度追及まで、著者の冷徹な視点を加えて語られている。

全体の中で、とりわけ読み応えがあるのは、瀬島龍三にからむ疑惑の章であろう。大本営参謀、関東軍参謀を務めた瀬島はソ連抑留後に帰国して伊藤忠商事に入社、同社会長にまで登り詰め財界人として活躍した。この人物への疑惑は他の現代史研究家も追及しているが、本書でもまだ十分解明されたとはいえないのではないだろうか？

『検証 シベリア抑留』 白井久也著

（平凡社新書800円）

第二次大戦の直後、約56万1000人の日本人がシベリアに抑留され、うち5万3000人が死亡。死亡者のうち約4割は埋葬場所さえ分らない。また帰国者への国家補償の問題も未解決である。

この重い課題を広範な関係文書に当たり、また存命の関係者にインタビューして、世に訴えたのが本書である。著者は元朝日新聞記者で、モスクワ支局長や共産圏担当編集委員を歴任してソ連事情にも詳しい。ソ連軍の満州侵攻、スターリンの

旺盛な活動を展開し、いち早く環境問題に取り組んできた。2004年に政界を引退して以降、同志社大学講師も務めた。もともと『チェンマイの首』でデビューした作家でもあるが、2007年に13年ぶりに『ごみを喰う男』を著し、ミステリーで

日本ペンクラブ環境委員長でもある著者は、サスペンスで環境問題を告発・啓発する「エコミステリー」という新たな分野を開拓したといえよう。

秘密指令、抑留者のシベリアでの生活など当時の実情から、この問題の解決に不熱心な日本政府の態度追及まで、著者の冷徹な視点を加えて語られている。

全体の中で、とりわけ読み応えがあるのは、瀬島龍三にからむ疑惑の章であろう。大本営参謀、関東軍参謀を務めた瀬島はソ連抑留後に帰国して伊藤忠商事に入社、同社会長にまで登り詰め財界人として活躍した。この人物への疑惑は他の現代史研究家も追及しているが、本書でもまだ十分解明されたとはいえないのではないだろうか？

『検証 シベリア抑留』 白井久也著

（平凡社新書800円）

第二次大戦の直後、約56万1000人の日本人がシベリアに抑留され、うち5万3000人が死亡。死亡者のうち約4割は埋葬場所さえ分らない。また帰国者への国家補償の問題も未解決である。

この重い課題を広範な関係文書に当たり、また存命の関係者にインタビューして、世に訴えたのが本書である。著者は元朝日新聞記者で、モスクワ支局長や共産圏担当編集委員を歴任してソ連事情にも詳しい。ソ連軍の満州侵攻、スターリンの

旺盛な活動を展開し、いち早く環境問題に取り組んできた。2004年に政界を引退して以降、同志社大学講師も務めた。もともと『チェンマイの首』でデビューした作家でもあるが、2007年に13年ぶりに『ごみを喰う男』を著し、ミステリーで

日本ペンクラブ環境委員長でもある著者は、サスペンスで環境問題を告発・啓発する「エコミステリー」という新たな分野を開拓したといえよう。

秘密指令、抑留者のシベリアでの生活など当時の実情から、この問題の解決に不熱心な日本政府の態度追及まで、著者の冷徹な視点を加えて語られている。

全体の中で、とりわけ読み応えがあるのは、瀬島龍三にからむ疑惑の章であろう。大本営参謀、関東軍参謀を務めた瀬島はソ連抑留後に帰国して伊藤忠商事に入社、同社会長にまで登り詰め財界人として活躍した。この人物への疑惑は他の現代史研究家も追及しているが、本書でもまだ十分解明されたとはいえないのではないだろうか？

『検証 シベリア抑留』 白井久也著

（平凡社新書800円）

第二次大戦の直後、約56万1000人の日本人がシベリアに抑留され、うち5万3000人が死亡。死亡者のうち約4割は埋葬場所さえ分らない。また帰国者への国家補償の問題も未解決である。

この重い課題を広範な関係文書に当たり、また存命の関係者にインタビューして、世に訴えたのが本書である。著者は元朝日新聞記者で、モスクワ支局長や共産圏担当編集委員を歴任してソ連事情にも詳しい。ソ連軍の満州侵攻、スターリンの

旺盛な活動を展開し、いち早く環境問題に取り組んできた。2004年に政界を引退して以降、同志社大学講師も務めた。もともと『チェンマイの首』でデビューした作家でもあるが、2007年に13年ぶりに『ごみを喰う男』を著し、ミステリーで

日本ペンクラブ環境委員長でもある著者は、サスペンスで環境問題を告発・啓発する「エコミステリー」という新たな分野を開拓したといえよう。

秘密指令、抑留者のシベリアでの生活など当時の実情から、この問題の解決に不熱心な日本政府の態度追及まで、著者の冷徹な視点を加えて語られている。

全体の中で、とりわけ読み応えがあるのは、瀬島龍三にからむ疑惑の章であろう。大本営参謀、関東軍参謀を務めた瀬島はソ連抑留後に帰国して伊藤忠商事に入社、同社会長にまで登り詰め財界人として活躍した。この人物への疑惑は他の現代史研究家も追及しているが、本書でもまだ十分解明されたとはいえないのではないだろうか？

『検証 シベリア抑留』 白井久也著

（平凡社新書800円）

第二次大戦の直後、約56万1000人の日本人がシベリアに抑留され、うち5万3000人が死亡。死亡者のうち約4割は埋葬場所さえ分らない。また帰国者への国家補償の問題も未解決である。

この重い課題を広範な関係文書に当たり、また存命の関係者にインタビューして、世に訴えたのが本書である。著者は元朝日新聞記者で、モスクワ支局長や共産圏担当編集委員を歴任してソ連事情にも詳しい。ソ連軍の満州侵攻、スターリンの

旺盛な活動を展開し、いち早く環境問題に取り組んできた。2004年に政界を引退して以降、同志社大学講師も務めた。もともと『チェンマイの首』でデビューした作家でもあるが、2007年に13年ぶりに『ごみを喰う男』を著し、ミステリーで

日本ペンクラブ環境委員長でもある著者は、サスペンスで環境問題を告発・啓発する「エコミステリー」という新たな分野を開拓したといえよう。

秘密指令、抑留者のシベリアでの生活など当時の実情から、この問題の解決に不熱心な日本政府の態度追及まで、著者の冷徹な視点を加えて語られている。

全体の中で、とりわけ読み応えがあるのは、瀬島龍三にからむ疑惑の章であろう。大本営参謀、関東軍参謀を務めた瀬島はソ連抑留後に帰国して伊藤忠商事に入社、同社会長にまで登り詰め財界人として活躍した。この人物への疑惑は他の現代史研究家も追及しているが、本書でもまだ十分解明されたとはいえないのではないだろうか？

『検証 シベリア抑留』 白井久也著

（平凡社新書800円）

第二次大戦の直後、約56万1000人の日本人がシベリアに抑留され、うち5万3000人が死亡。死亡者のうち約4割は埋葬場所さえ分らない。また帰国者への国家補償の問題も未解決である。

この重い課題を広範な関係文書に当たり、また存命の関係者にインタビューして、世に訴えたのが本書である。著者は元朝日新聞記者で、モスクワ支局長や共産圏担当編集委員を歴任してソ連事情にも詳しい。ソ連軍の満州侵攻、スターリンの

旺盛な活動を展開し、いち早く環境問題に取り組んできた。2004年に政界を引退して以降、同志社大学講師も務めた。もともと『チェンマイの首』でデビューした作家でもあるが、2007年に13年ぶりに『ごみを喰う男』を著し、ミステリーで

日本ペンクラブ環境委員長でもある著者は、サスペンスで環境問題を告発・啓発する「エコミステリー」という新たな分野を開拓したといえよう。

秘密指令、抑留者のシベリアでの生活など当時の実情から、この問題の解決に不熱心な日本政府の態度追及まで、著者の冷徹な視点を加えて語られている。

全体の中で、とりわけ読み応えがあるのは、瀬島龍三にからむ疑惑の章であろう。大本営参謀、関東軍参謀を務めた瀬島はソ連抑留後に帰国して伊藤忠商事に入社、同社会長にまで登り詰め財界人として活躍した。この人物への疑惑は他の現代史研究家も追及しているが、本書でもまだ十分解明されたとはいえないのではないだろうか？

『検証 シベリア抑留』 白井久也著

（平凡社新書800円）

第二次大戦の直後、約56万1000人の日本人がシベリアに抑留され、うち5万3000人が死亡。死亡者のうち約4割は埋葬場所さえ分らない。また帰国者への国家補償の問題も未解決である。

この重い課題を広範な関係文書に当たり、また存命の関係者にインタビューして、世に訴えたのが本書である。著者は元朝日新聞記者で、モスクワ支局長や共産圏担当編集委員を歴任してソ連事情にも詳しい。ソ連軍の満州侵攻、スターリンの

旺盛な活動を展開し、いち早く環境問題に取り組んできた。2004年に政界を引退して以降、同志社大学講師も務めた。もともと『チェンマイの首』でデビューした作家でもあるが、2007年に13年ぶりに『ごみを喰う男』を著し、ミステリーで

日本ペンクラブ環境委員長でもある著者は、サスペンスで環境問題を告発・啓発する「エコミステリー」という新たな分野を開拓したといえよう。

秘密指令、抑留者のシベリアでの生活など当時の実情から、この問題の解決に不熱心な日本政府の態度追及まで、著者の冷徹な視点を加えて語られている。

全体の中で、とりわけ読み応えがあるのは、瀬島龍三にからむ疑惑の章であろう。大本営参謀、関東軍参謀を務めた瀬島はソ連抑留後に帰国して伊藤忠商事に入社、同社会長にまで登り詰め財界人として活躍した。この人物への疑惑は他の現代史研究家も追及しているが、本書でもまだ十分解明されたとはいえないのではないだろうか？

『検証 シベリア抑留』 白井久也著

（平凡社新書800円）

第二次大戦の直後、約56万1000人の日本人がシベリアに抑留され、うち5万3000人が死亡。死亡者のうち約4割は埋葬場所さえ分らない。また帰国者への国家補償の問題も未解決である。

この重い課題を広範な関係文書に当たり、また存命の関係者にインタビューして、世に訴えたのが本書である。著者は元朝日新聞記者で、モスクワ支局長や共産圏担当編集委員を歴任してソ連事情にも詳しい。ソ連軍の満州侵攻、スターリンの

旺盛な活動を展開し、いち早く環境問題に取り組んできた。2004年に政界を引退して以降、同志社大学講師も務めた。もともと『チェンマイの首』でデビューした作家でもあるが、2007年に13年ぶりに『ごみを喰う男』を著し、ミステリーで

日本ペンクラブ環境委員長でもある著者は、サスペンスで環境問題を告発・啓発する「エコミステリー」という新たな分野を開拓したといえよう。

秘密指令、抑留者のシベリアでの生活など当時の実情から、この問題の解決に不熱心な日本政府の態度追及まで、著者の冷徹な視点を加えて語られている。

全体の中で、とりわけ読み応えがあるのは、瀬島龍三にからむ疑惑の章であろう。大本営参謀、関東軍参謀を務めた瀬島はソ連抑留後に帰国して伊藤忠商事に入社、同社会長にまで登り詰め財界人として活躍した。この人物への疑惑は他の現代史研究家も追及しているが、本書でもまだ十分解明されたとはいえないのではないだろうか？

『検証 シベリア抑留』 白井久也著

（平凡社新書800円）

第二次大戦の直後、約56万1000人の日本人がシベリアに抑留され、うち5万3000人が死亡。死亡者のうち約4割は埋葬場所さえ分らない。また帰国者への国家補償の問題も未解決である。

この重い課題を広範な関係文書に当たり、また存命の関係者にインタビューして、世に訴えたのが本書である。著者は元朝日新聞記者で、モスクワ支局長や共産圏担当編集委員を歴任してソ連事情にも詳しい。ソ連軍の満州侵攻、スターリンの

旺盛な活動を展開し、いち早く環境問題に取り組んできた。2004年に政界を引退して以降、同志社大学講師も務めた。もともと『チェンマイの首』でデビューした作家でもあるが、2007年に13年ぶりに『ごみを喰う男』を著し、ミステリーで

日本ペンクラブ環境委員長でもある著者は、サスペンスで環境問題を告発・啓発する「エコミステリー」という新たな分野を開拓したといえよう。

秘密指令、抑留者のシベリアでの生活など当時の実情から、この問題の解決に不熱心な日本政府の態度追及まで、著者の冷徹な視点を加えて語られている。

全体の中で、とりわけ読み応えがあるのは、瀬島龍三にからむ疑惑の章であろう。大本営参謀、関東軍参謀を務めた瀬島はソ連抑留後に帰国して伊藤忠商事に入社、同社会長にまで登り詰め財界人として活躍した。この人物への疑惑は他の現代史研究家も追及しているが、本書でもまだ十分解明されたとはいえないのではないだろうか？

『検証 シベリア抑留』 白井久也著

（平凡社新書800円）

第二次大戦の直後、約56万1000人の日本人がシベリアに抑留され、うち5万3000人が死亡。死亡者のうち約4割は埋葬場所さえ分らない。また帰国者への国家補償の問題も未解決である。

この重い課題を広範な関係文書に当たり、また存命の関係者にインタビューして、世に訴えたのが本書である。著者は元朝日新聞記者で、モスクワ支局長や共産圏担当編集委員を歴任してソ連事情にも詳しい。ソ連軍の満州侵攻、スターリンの

旺盛な活動を展開し、いち早く環境問題に取り組んできた。2004年に政界を引退して以降、同志社大学講師も務めた。もともと『チェンマイの首』でデビューした作家でもあるが、2007年に13年ぶりに『ごみを喰う男』を著し、ミステリーで

日本ペンクラブ環境委員長でもある著者は、サスペンスで環境問題を告発・啓発する「エコミステリー」という新たな分野を開拓したといえよう。

秘密指令、抑留者のシベリアでの生活など当時の実情から、この問題の解決に不熱心な日本政府の態度追及まで、著者の冷徹な視点を加えて語られている。

全体の中で、とりわけ読み応えがあるのは、瀬島龍三にからむ疑惑の章であろう。大本営参謀、関東軍参謀を務めた瀬島はソ連抑留後に帰国して伊藤忠商事に入社、同社会長にまで登り詰め財界人として活躍した。この人物への疑惑は他の現代史研究家も追及しているが、本書でもまだ十分解明されたとはいえないのではないだろうか？

『検証 シベリア抑留』 白井久也著

（平凡社新書800円）

第二次大戦の直後、約56万1000人の日本人がシベリアに抑留され、うち5万3000人が死亡。死亡者のうち約4割は埋葬場所さえ分らない。また帰国者への国家補償の問題も未解決である。

この重い課題を広範な関係文書に当たり、また存命の関係者にインタビューして、世に訴えたのが本書である。著者は元朝日新聞記者で、モスクワ支局長や共産圏担当編集委員を歴任してソ連事情にも詳しい。ソ連軍の満州侵攻、スターリンの

旺盛な活動を展開し、いち早く環境問題に取り組んできた。2004年に政界を引退して以降、同志社大学講師も務めた。もともと『チェンマイの首』でデビューした作家でもあるが、2007年に13年ぶりに『ごみを喰う男』を著し、ミステリーで

日本ペンクラブ環境委員長でもある著者は、サスペンスで環境問題を告発・啓発する「エコミステリー」という新たな分野を開拓したといえよう。

秘密指令、抑留者のシベリアでの生活など当時の実情から、この問題の解決に不熱心な日本政府の態度追及まで、著者の冷徹な視点を加えて語られている。

全体の中で、とりわけ読み応えがあるのは、瀬島龍三にからむ疑惑の章であろう。大本営参謀、関東軍参謀を務めた瀬島はソ連抑留後に帰国して伊藤忠商事に入社、同社会長にまで登り詰め財界人として活躍した。この人物への疑惑は他の現代史研究家も追及しているが、本書でもまだ十分解明されたとはいえないのではないだろうか？

『検証 シベリア抑留』 白井久也著

（平凡社新書800円）

第二次大戦の直後、約56万1000人の日本人がシベリアに抑留され、うち5万3000人が死亡。死亡者のうち約4割は埋葬場所さえ分らない。また帰国者への国家補償の問題も未解決である。

この重い課題を広範な関係文書に当たり、また存命の関係者にインタビューして、世に訴えたのが本書である。著者は元朝日新聞記者で、モスクワ支局長や共産圏担当編集委員を歴任してソ連事情にも詳しい。ソ連軍の満州侵攻、スターリンの

旺盛な活動を展開し、いち早く環境問題に取り組んできた。2004年に政界を引退して以降、同志社大学講師も務めた。もともと『チェンマイの首』でデビューした作家でもあるが、2007年に13年ぶりに『ごみを喰う男』を著し、ミステリーで

日本ペンクラブ環境委員長でもある著者は、サスペンスで環境問題を告発・啓発する「エコミステリー」という新たな分野を開拓したといえよう。

秘密指令、抑留者のシベリアでの生活など当時の実情から、この問題の解決に不熱心な日本政府の態度追及まで、著者の冷徹な視点を加えて語られている。

全体の中で、とりわけ読み応えがあるのは、瀬島龍三にからむ疑惑の章であろう。大本営参謀、関東軍参謀を務めた瀬島はソ連抑留後に帰国して伊藤忠商事に入社、同社会長にまで登り詰め財界人として活躍した。この人物への疑惑は他の現代史研究家も追及しているが、本書でもまだ十分解明されたとはいえないのではないだろうか？

『検証 シベリア抑留』 白井久也著

（平凡社新書800円）

第二次大戦の直後、約56万1000人の日本人がシベリアに抑留され、うち5万3000人が死亡。死亡者のうち約4割は埋葬場所さえ分らない。また帰国者への国家補償の問題も未解決である。

この重い課題を広範な関係文書に当たり、また存命の関係者にインタビューして、世に訴えたのが本書である。著者は元朝日新聞記者で、モスクワ支局長や共産圏担当編集委員を歴任してソ連事情にも詳しい。ソ連軍の満州侵攻、スターリンの

旺盛な活動を展開し、いち早く環境問題に取り組んできた。2004年に政界を引退して以降、同志社大学講師も務めた。もともと『チェンマイの首』でデビューした作家でもあるが、2007年に13年ぶりに『ごみを喰う男』を著し、ミステリーで

日本ペンクラブ環境委員長でもある著者は、サスペンスで環境問題を告発・啓発する「エコミステリー」という新たな分野を開拓したといえよう。

秘密指令、抑留者のシベリアでの生活など当時の実情から、この問題の解決に不熱心な日本政府の態度追及まで、著者の冷徹な視点を加えて語られている。

全体の中で、とりわけ読み応えがあるのは、瀬島龍三にからむ疑惑の章であろう。大本営参謀、関東軍参謀を務めた瀬島はソ連抑留後に帰国して伊藤忠商事に入社、同社会長にまで登り詰め財界人として活躍した。この人物への疑惑は他の現代史研究家も追及しているが、本書でもまだ十分解明されたとはいえないのではないだろうか？

『検証 シベリア抑留』 白井久也著

（平凡社新書800円）

第二次大戦の直後、約56万1000人の日本人がシベリアに抑留され、うち5万3000人が死亡。死亡者のうち約4割は埋葬場所さえ分らない。また帰国者への



血肉となった憲法の理念

『死んだらもうはないー益永スミコ 86歳』

体制に従わずに自分で考える



「君が代不起立」などのドキュメンタリーを制作してきたビデオプレスの松原明と佐々木有美は、国会前の教育基本法改悪反対行動で益永スミコと出会う。益永は1923

年生まれ。長く助産師として働き、街頭に立ち一人て死刑廃止や改憲反対などを訴えてきた。作品は益永の故郷・大分をはじめ、初めて労組を結成した当時の仲間な

どを取材、その半生をたどる。益永は自らが軍国少女として兵士を送り出したことに常に向き合い、反戦平和運動に関わってきた。子どもを育て、労働者

として自覚し、日本国憲法を、外在的な理念ではなく自分の血肉として生きてきた。益永にとってベトナム

戦争の被害者も、三菱重工爆破事件被害の死刑囚片岡利明も、誰かの問題ではなく自分の問題。片岡との養子縁組も、自分に何ができて、と考えるの決断だ。

「日本人は天皇の赤子」と教え込まれた軍国教育を、多くの人はこれまで「軍国主義が国民をだました」で済ませてきた。人

によつては「時代の空気に流された」と日本人の同調性を論評してきた。しかし益永は「自分が無知だった」ことを根底におき、自らの戦争責任を引き受ける。そこから

は自らの国を守る目的が第一で、第二は「不安定の孤」と言われる、九州西側からアフリカ大陸北東部までの地域をにらんでいると力説。「そのため海兵隊は2014年まで(2013年中)にグ

アム移転する計画には変わりない」このことを日本の新聞はなぜ書かないのか。「日米安保条約50年の変質」を国民に広く知らせ、

健康の秘訣は「喧嘩すること、従わないこと」という益永は、「従わないためには自分で考えなければ」と語る。国家総動員体制の怖さを体験した益永は、誰からも動員されない活動家として闘い続

けている。(DVD定価4500円 問い合わせビデオプレス 03-3530-8588 保坂義久)

新聞

なぜ「抑止力」の本質と実態を書かぬ

鳩山由紀夫首相が5月4日に沖縄を訪問、「学べば学ば(米海兵隊の各部隊が)連携して抑止力を維持していることが分かった」と発言した。発言自体お粗末だが、「首相の沖縄訪問」につい

ての各紙の社説は底が浅く「現時点報道」を出さない内容だった。5日に毎日と読売、7日に朝日と西日本が社説

の負担軽減という困難な二正面作戦に他ならない。そのことは初歩の初歩のはずではなかったか」と指摘していた。し

かし、「初歩の初歩」という「抑止力」の中身について朝日は触れていない。「抑止力」は日米安保条約の変質とともに変わっ

てきた。しかし、日本政府も日本のマスコミも「変質」を言わない。日米安保改定50年の今年、その変質を踏まえてこそ、

基地をどう考えるか、そこから考えなければ日本は迷走するばかりだ。憲法記念日に福岡市で元毎日新聞記者・西山太

吉さんの「沖縄密約と日本国憲法」と題する講演を聞いた。西山さんは「日米安保条約は50年の間に変質してきたのに、日本政府も日本のマスコ

ミも、50年前の安保条約に添った発想しかしていない」と手厳しく指摘した。その数日前には、普天間飛行場がある宜野

湾市の伊波洋一市長も福岡市での講演で「海兵隊がいなくなったら日本は守れない」と大騒ぎするの

はおかしいと明言した。二人とも、現在の米軍や独立運動家としての成長と思想的遍歴を、彼の著書や在米の孫の証言などを交えて丹念に紹介し

た。事件後に逮捕投獄され「最近の研究によると」

月間マスコミ批評

日本による韓国併合から100年、日清・日露戦争から併合に至る日韓関係は巡る日本と韓国の歴史認識は、現在も大きく隔たつたままである。

4月18日放送のNHKスペシャル『日本と朝鮮半島』第1回「韓国併合への道」は、併合の老練かつ徹底的政治家・伊藤の実像をどこまで明らかにできたのか疑問が残る。

藤博文暗殺を中心に、伊藤と狙撃者・安重根(ア

ン・ジュンゴン)の二人が、激動する東アジア情勢の中で、それぞれ目指したものは何であったのかに迫ろうとした。

しかし、併合にいたる経緯が冷徹な政治家・伊藤の実像をどこまで明らかにできたのか疑問が残る。

「韓国併合への道」伊藤博文の実像は？

と前置きしながら、これまで積極的に併合を推進したとされてきた伊藤が、日清戦争後、清国の国家としての主権と尊厳を奪う保護国化の方針を強要し、協約に反対す

る韓国閣僚を「殺してしまえ」と脅したとまでいわれている。最近の研究では、この他にも日清戦争前の朝鮮王宮占領や戦後の関妃暗殺などの無法な日本の行動にも伊藤が関与したり

殺など、無数の無法な日本の行動にも伊藤が関与したり追認したりしていたことが、公式の電文などで確認されており、番組の印象とは違って、目的のためには手段を選ばない伊藤の冷酷な一面が明らかになりつつある。

紹介した。しかし、伊藤は実際には第二次日韓協約で韓国の国家としての主権と尊厳を奪う保護国化の方針を強要し、協約に反対す

る。水上一郎

放送

「韓国併合への道」伊藤博文の実像は？

4月18日放送のNHK

スペシャル『日本と朝鮮

半島』第1回「韓国併合

への道」は、併合の老練

かつ徹底的政治家・伊藤

の実像をどこまで明らかに

できたのか疑問が残る。

藤博文暗殺を中心に、伊

藤と狙撃者・安重根(ア

ン・ジュンゴン)の二人

が、激動する東アジア情

勢の中で、それぞれ目指

したものは何であったの

かに迫ろうとした。

しかし、併合にいたる

経緯が冷徹な政治家・伊

藤の実像をどこまで明

らかにできたのか疑問が

残る。

藤博文暗殺を中心に、伊

藤と狙撃者・安重根(ア

ン・ジュンゴン)の二人

が、激動する東アジア情

勢の中で、それぞれ目指

したものは何であったの

かに迫ろうとした。

しかし、併合にいたる

経緯が冷徹な政治家・伊

藤の実像をどこまで明

らかにできたのか疑問が

残る。

藤博文暗殺を中心に、伊

藤と狙撃者・安重根(ア

が、激動する東アジア情

勢の中で、それぞれ目指

したものは何であったの

かに迫ろうとした。

しかし、併合にいたる

経緯が冷徹な政治家・伊

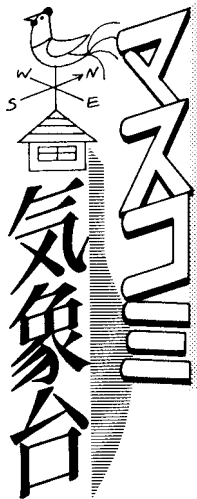
藤の実像をどこまで明

らかにできたのか疑問が

残る。

藤博文暗殺を中心に、伊

藤と狙撃者・安重根(ア



天気予報

◇日経新聞電子版の有料会員6万人突破
日本経済新聞社が3月23日に創刊した「電子版」の有料登録会員数が17日、6万人に達した。総会員の2割が電子版のすべての記事や機能を利用できる有料会員として登録しており、世界の有料電子版の中でも高い比率になっている。
有料登録会員数のうち、7割強が企業や官公庁などに勤務。約4割が部長以上の経営幹部だった。
3月に発表した「記者会見の全面開放宣言」を踏まえ、新聞労連が先頭に立ち、同誌も新たなスポンサーを探すこととみられる。
◇ニューズウィーク誌は1933年に創刊、61年にワシントン・ポスト社が買収した。
〔毎日〕5月6日付夕刊
◇東京の書店組合が電子雑誌「iPad」向け10タイトル
約600の書店が加盟する東京都書店商業組合は11日、米アップル社の新型携帯端末「iPad」(アイパッド)向けに6月から、電子雑誌を販売すると発表した。
現在運営している携帯電話向け電子書籍販売サイト「ブックカース」を通じて、10タイトルで始めるという。
アップルの「アイフォーン」など多機能携帯電話をはじめ、今後登場する読書端末にも対応していく予定。(毎日)5月12日付ほか
◇記者会見、全面開放を
新聞労連は25日、「記者会見は誰のもの」と題した研究集会を都内で開き、記者会見の全面開放に向け、議論した。記者ら約100人が参加。
豊秀一委員長が「昨年9月に政権交代があり、われわれが主導してやるべき記者会見の開放が、政治主導でやられ始めた。じくじたる思いだ」とあいさつした。
米メディア大手ワシントン・ポスト社は5日、傘下のニューズウィーク誌の売却を検討していると発表した。
米出版業界はネットの普及と広告の落ち込みで厳しい経営環境に陥っており、同誌も新たなスポンサーを探すこととみられる。
〔毎日〕5月6日付夕刊
◇東京の書店組合が電子雑誌「iPad」向け10タイトル
約600の書店が加盟する東京都書店商業組合は11日、米アップル社の新型携帯端末「iPad」(アイパッド)向けに6月から、電子雑誌を販売すると発表した。
現在運営している携帯電話向け電子書籍販売サイト「ブックカース」を通じて、10タイトルで始めるという。
アップルの「アイフォーン」など多機能携帯電話をはじめ、今後登場する読書端末にも対応していく予定。(毎日)5月12日付ほか



――マスメディア批判で多いのは記者クラブの問題ですね。

記者会見や記者室のオープン化は当然です。しかし、記者クラブに属している記者は、報道各社に属する一社員に過ぎません。クラブのキャップであっても、会社組織全体から見れば、いわば末端です。「会見開放」などの重大事を決定する裁量を、組織から与えられているとは思えません。建前では記者クラブは「自主組織」ですが、クラブ構成員は会社の論理に縛られている。だから、メディア企業の報道部門の責任者が動かないと、開放問題は動きません。日本新聞協会は、記者会見

総務省や外務省の大臣会見に、記者クラブに属さないフリーランスなどの記者の参加が一部で認められるようになった。新聞労連新聞研究部も3月に、「記者会見の全面開放宣言」記者クラブ改革へ踏み出そう」という声明を発表。組合員が率先して記者会見開放を進める手引きを目指している。だが、北海道新聞の高田昌幸記者は、記者クラブがメディア劣化の主因ではないとし、記者の権力監視の役割を具体的に指摘する。

――もつと問題なのは？
これだけ雇用問題が起きているのに、新聞労連も過去、記者クラブ開放の声明を何度か出した。変わらないのは、理念を掲げて満足し、誰も本気で動かなかつたからではないでしょうか。
本来は、ジャーナリストの個人加盟の自主組織をつくり、そこが発行する記者証の所持者は、ある程度は会見や記者室にアクセスできる形が理想でしょう。フリーも雑誌記者も新聞記者も、平等な組織。クラブ問題を片付けるには、それが一番現実的です。ただ、報道の問題点を100とすれば、開放問題などは10程度の割合を具体的に指摘する。

メディア不信なぜ起る 権力に物言わぬ報道姿勢

体制は何十年もずっと変わっていない。そこが焦点のひとつです。
政治面、社会面、経済面という面立ても、全国紙と一県一紙という体制もずっと続いています。人員配置も旧態依然です。例えばおそらくこの社会部でも、貼りつける記者は警察が7、裁判

大な量が報道されます。――警察や検察への批判は弱い？
日本の社会面の悪しき伝統で「その捜査はおかしい」と言えない。多くの記者が警察に張り付いているのに、例えば志布志事件のように冤罪が発覚するのは裁判になってからです。
例えば、小沢一郎民主



北海道新聞記者
高田昌幸さん

◆プロフィール
高田昌幸(たかだ・まさゆき)／1960年生まれ、1986年北海道新聞入社。社会部、経済部、東京政治経済部、ロンドン支局等で取材。2004年、北海道警の裏金問題追及の取材班代表としてJCJ大賞、新聞協会賞、菊地寛賞、新聞労連ジャーナリスト大賞を受賞。

最近、報道機関が自らの責任で担当調査報道、政治家の政治責任を問う政治報道、推定無罪の原則を守るべき事件報道、それらがごちゃごちゃになって進んでいます。
――メディアへの不信が強まっていますね。
読者のメディア不信は、メディアが権力に対して物が言えないことを見抜いているからでしょう。権力の設定したアジエンタでしか書かない。警察が「最近、治安が悪化している」と発表したら、「本当に治安は悪化しているのか」と疑って取材しなければならぬ。以前、官官接待が問題になりました。情報公開請求をすると領収証が出てきて、地方自治体は食糧費の名目で中央省庁の役人を接待したと説明

沖縄、とりわけ普天間基地問題は、ずっと眠らされていた「日米安保」を国民に改めて考えさせる機会になった。
「安保の時はすこかった……」さまざまな形で語り継がれる安保闘争だがその盛り上がりは国民の関心を基礎に、マスコミの報道によって一層高まった。
1958年10月、改定交渉が始まったが、59年3月には、社会党・総評を中心に138団体が参加して安保改定阻止国民会議が結成され、4月の第一次統一行動を皮切りに、デモや集会が行われた。国民会議の参加団体も次第に増えた。同年11月には、知識人による

いま、なぜ安保③ 組織的なマスコミ攻撃

「安保批判の会」もJCJを連絡先に結成、独自の国会請願活動を始めると、1年半の間に、労組、学生、女性団体なども動き始めた大運動になっていった。
JCJは同年11月、「危険な条約・安保問題偽らざる報告書」を発行して啓発運動をしていたが、27日の国会デモが混乱し、新聞や放送がそれをことさら問題にしたのに対し、28日、新聞労連と共催で「安保阻止ジャーナリスト緊急集会」を開いて「国会立ち入りやデモの自由立ち返った記事を書く」などを主張したアピールを発表した。
60年1月、デモ隊を振り切つて渡米した岸信介首相

……ひとつには新聞記者は取材対象との付き合いのほつが、エンドユーザーである読者と接するより深いからでしょう。役人や経営者に「昨日の記事はよかったね」と誉められて喜んでいては駄目なのですが……。二度と来るな」と怒鳴りつけられても足を運び、相手も無視できないようにならないといけない。新聞記者の報酬は役人や政治家からもらっているわけではあります。安くない購読料を払ってくれる多くの読者に支えられているわけですから。

――記者の力量は落ちていない？
自分が会社に入った頃からの経験で言えば取材力は下り坂だと感じま

聞き手 保坂義久
写真 柴本政江

ミニニュース

ドキュメンタリー番組を見て制作者と話し合う会
JCJ東海は5月29日(土)午後からドキュメンタリー番組を見て制作者と話し合う会を開く。上映作品は東海テレビ制作の「罪と罰」(FNNドキュメンタリー大賞受賞)他を準備中。
▼日時 5月29日(土)午後1時30分から
▼会場 東生涯学習センター(新栄芸術創造センター隣)。会場費・カンパ200円から。
▼問い合わせ TEL・FAX052-531-7284、JCJ東海事務局まで。
自由人権協会が集会
自由人権協会(JCLU)は5月29日(土)午後2時30分から東京恵比寿のエビスバルビルでシンポジウム「知る権利を求めて」沖縄密約情報公開訴訟が投げかけたもの」と題して集会を開く。「沖縄とJCLUとして情報公開」の報告とビデオ上映(予定)、我部政明琉球大学教授、仲本和彦沖縄県文化振興会公文書主任専門員、三宅弘弁護士、小町谷育子弁護士によるパネル討論などが行われる。入場無料、問い合わせはTEL03-3437-5466、FAX03-3578-6668 自由人権協会まで。